

貧困や紛争、疫病や気候変動など…世界中で向き合わなければいけない問題が、今、山積みになっています。誰ひとり取り残されない持続可能でよりよい社会を、2030年までに目指す国際目標“SDGs”。SDGsで示された17の目標それぞれと農業や組織活動、JAとの関わりを、実際に行われている取り組みとともに紹介します(4号連載予定/第3回)。SDGsを意識した毎日の行動によって、わたしたち自身や未来を担う子どもたち、地球上の人々の笑顔につなげましょう。

11 住み続けられるまちづくりを



住み続けられる まちづくり き

近年、自然災害の数や被害人数が増えており、災害に強い安全なまちづくりが求められています。農地には農産物をつくるほかに、その貯水力によって洪水や土砂の流出などの災害を軽減する働きがあり、**農地を守ることがわたしたちの生活を守ることにつながっています。**加えて、万一に備えて対策することが重要です。自宅はもちろん外出中や農作業中の場合を考えて、いちばん近い避難場所や、近くの農道や畦畔などの安全性を、災害にあう前に確認しておきましょう。農地の維持には、農業を担う生産者の存在が欠かせないと同時に、都市部と農村部のつながりを保ち、理解を醸成していかなければなりません。JAは**農業の担い手のフォローに努め、多くの生産者の技術指導や経営支援をしています。**また、農業体験や施設見学などを通して、**地域の人々が農業への関心を高める機会を提供しています。**



農業の多面的機能がわたしたちの生活を守っています



特産の梨への理解を深める小学生

12 つくる責任 つかう責任



つくる 責任 つかう 責任

農産物を作るうえで、圃場や生産資材、燃料などをはじめ、様々なものが必要になります。また、わたしたちの食や生活が安定し続けるためには、環境に配慮した行動が大切です。生産現場においては、**資源を正しく使い、かつ正しく処分することに加え、自然に分解される資材を選んだり、減農薬に取り組んだりすることなどが挙げられます。**JAはより効果的な資材や新商品などの情報を生産者に提供し、環境負荷の少ない農業の実現を支援します。同時に、食品の廃棄量が多いことは事実であり、消費者も資源やお金のむだ遣いをしていくことになります。消費者として、買ったものを使い切る、必要なものだけを買うといった**責任ある使いかたを、家やお店で意識してみましょ**う。自分たちの周りの環境がいつまでも美しく保たれ、人々が健康に過ごせるかは、自分たちの行動次第です。



使用農薬成分回数を抑えた「サキホコレ」の合格印



効果的な商品の紹介をするメーカー担当者ら